

3次元点群測量への取組



取組概要

- 【デジタル技術などの活用による生産性向上】
- ・ UAV（ドローン）測量、地上型レーザー測量、SLAM 測量の導入
 - ・ BIM/CIM によるデータ作成

代表取締役 神崎 亮氏

—3次元点群測量の取組を始めたきっかけを教えてください。

神崎代表取締役： 測量業というのは、どこの会社もできることは一緒なんです。だから「うちじゃないとこれはできない」という強みがなかなか見出せない状況でした。そこへ12、13年前からDXという言葉が出てきて、ドローン測量という新時代が始まりました。これなら同業他社に負けないイニシアチブが取れるかもしれない、新たなビジネスチャンスが広げられるかもしれない、という思いから約11年前に挑戦し始めました。ドローンの導入は、測量会社の中では弊社が一番早かったと思います。

—ドローンをいち早く導入したこともあり、かなり多くの実績を積んできたと同っています。

神崎代表取締役： そうですね。ありがたいことにさまざまなお仕事をさせていただいています。ですがもう3次元点群測量は当たり前の技術です。以前は「同業他社に負けない強みを！」と奮起して取り組んでいましたが、今は同業他社と協業するようになっています。

やはり、最新機種は非常に高価です。ですから、我々のような中小企業は数社で機械を貸し借りすることで、持ちつ持たれつ関係を築いています。例えば、機械を貸すから人を貸して、というようなこともあります。昔では考えられない状況ですが、今はライバル会社とも繋がり、手を取り合う時代だと感じています。



—3次元点群測量は現場作業の時間短縮や得られる情報量の多さなど、メリットが非常に多いと聞いていますが、実測との比較を疑問視するお客様もいるそうですね。

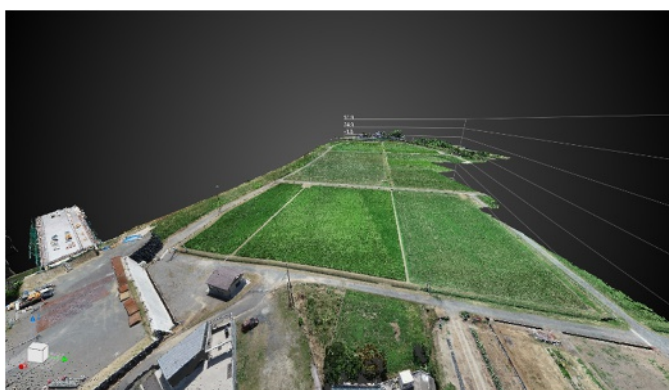
神崎代表取締役： 実測だと基準があり、人の手で1つ1つ計測点を押さえながら測るので、誰が測っても高い要求精度で一致します。でも、ドローンだと空を飛びながらですから、

一見不安定に見えるのでしょうか。「手で測るとドローンでは、かなり違いが出るのではないか」というお客さまの不安がすごいです(笑)。

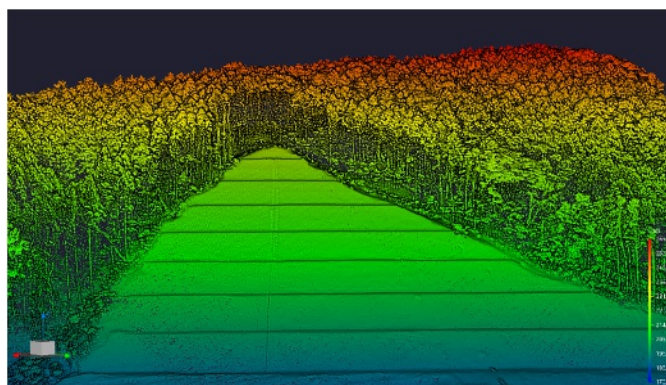
測量屋の仕事として、1ミリも間違いのない数字を上げて当然という考えが念頭にあるでしょうから、お客さまの気持ちは理解できます。ただ、我々プロは高い計算式を用いて何度も計算し、最終的に0.001mまで突き詰める仕事をしています。その事実をお客さまにしっかりご理解いただき、納得してもらうことが非常に大事だなと感じています。



測量作業風景



ドローンを活用した点群測量



森林標高の可視化も可能

—3次元点群測量を取り入れてから、従業員からはどのような声が上がっていますか？

神崎代表取締役： 若手は近未来的な手法に興味を示し、極めようと技術の習得に日々邁進しています。特に夏の暑い時期は「外で測量する時間が短くなった」と喜んでいますが、ただ、ベテランの技術者たちが、長年培ってきた手法との違いや新たな測量機器に戸惑っている姿も、正直見受けられます。

しかし、測量は結局、基礎が一番大事なんです。だからデジタルに頼らず、自分で考えて作り上げることができるベテランたちは、それが最大の強みです。逆にIT世代の若手にはそれができません。ですから、従来手法と新しい技術、現場に応じてバランスをとりつつ、それぞれが力を発揮できる場所でそれぞれの仕事を頑張ってもらいたいと思っています。

—今後の展望について教えてください。

神崎代表取締役： 測量という業種はなかなか画期的な進化が生まれにくい職業でした。それがドローンなどの登場によって大きな変革期を迎え、まだまだ新しいチャンスが生まれる可能性もあります。将来はロボットが測り、完全な無人化になるかもしれません。

今後も従来の手法と新しい取り組みを状況に合わせてバランスよく活用しながら、測量という仕事を未来へ繋げていくことが非常に重要だと考えています。

株式会社西日本測研社

業種	測量、設計(道路など)
代表者	代表取締役 神崎 亮
従業員数	9人
所在地	北九州市小倉北区中井一丁目42-18
HP	https://www.n-sokukensha.co.jp/
電話番号	093-581-9621

